

令和 6 年賃金構造基本統計調査 [問題：全 2 問]

問 1 「令和 6 年賃金構造基本統計調査の概況」（厚生労働省）で示された賃金に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 一般労働者の男女間賃金格差は、男性を 100 とすると、女性は約 85 である。
2. 性別にみた賃金では、男性は女性に比べ賃金の上昇が緩やかである。
3. 産業別にみた賃金では、男女計では「電気・ガス・熱供給・水道業」が最も高い。
4. 都道府県別にみた賃金では、全国計よりも賃金が高かったのは、東京都のみである。

【第 10 回問 19、第 11 回問 24 改題】

☐☐☐

問 2 「令和 6 年賃金構造基本統計調査の概況」（厚生労働省）で示された賃金に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 男女別に賃金カーブをみると、男性では、年齢階級が高くなるにつれて賃金が高くなり、55～59 歳に賃金がピークとなる。
2. 企業規模間での賃金格差はあるものの、女性は男性に比べると、企業規模間の賃金格差は小さい傾向がみられる。
3. 正社員・正職員と正社員・正職員以外の、雇用形態別の賃金は、正社員・正職員を 100 とすると、正社員・正職員以外の男女計では 70 に満たない。
4. 短時間労働者の賃金を、企業規模別に 1 時間当たり賃金でみると、男性、女性ともに大企業が最も高い。

【第 10 回問 19、第 11 回問 24 改題】

☐☐☐

令和6年賃金構造基本統計調査〔正答と解説：全2問〕

問1【Bランク】

正答：3

1. ×：男性を100とすると、女性は約76（75.8）である。
2. ×：逆である。女性は男性よりも賃金の上昇が緩やかであり、男性の方が賃金の上昇、下降の傾きが大きい。
3. ○：男女計では、「電気・ガス・熱供給・水道業」が最も高い。
男女別では、男性は「金融業、保険業」が最も高く、女性では「電気・ガス・熱供給・水道業」が最も高い。最も低いのは男女計、男女別でも「宿泊業、飲食サービス業」である。
4. ×：全国計よりも賃金が高かったのは4都府県（東京都、神奈川県、愛知県、大阪府）であり、東京都が最も高い。

問2【Cランク】

正答：2

1. ○：男性では55～59歳、女性は45～49歳がピークである。
2. ○：大企業を100とすると、男性は中企業88.2、小企業80.4、女性では中企業91.5、小企業86.1となっている。
3. ○：男女計で約66.9であり、男女別では男性68.8、女性71.5である。
4. ×：男性では、大企業1,527円、中企業2,089円、小企業1,605円、女性では、大企業1,365円、中企業1,458円、小企業1,358円であり、男女ともに中企業が最も高い。